

摂理のうちにある祝福

神自身で導いておられるイスラエル民族の歴史は人間耕作のモデルであり、全人類に向けられた神の愛の心である。

神を愛する者

まことに神を愛する人は神を第一に愛して、御霊の歩みへと導く牧者を受するだけでなく魂への愛が優れている。

心の真実さを望んでおられるので

御霊に属する心をすみやかに耕すために、全き心とはどんなものなのか調べてみる。

支教会9月スケジュール

「主をあおぐもの〜」

脊椎骨折がいやされたケニアのヤコブ聖徒と、御霊に属する心を耕したことで魂への愛が大きくなったという韓国のイ・ヨンジン勅士の証し。

万民ニュース

第154号 2015. 8. 23.

MANMIN NEWS

TEL: 82-2-818-7063

www.manmin.org

主の愛によってイスラエルを目ざめさせる!

みことばと神の力、信仰と愛によって行ったイスラエル宣教



福音が始まった場所だが、イエス様が全人類の救い主であることを信じられないイスラエルの地に、堂会長イ・ジェロク牧師がいのちのみことばと神の力あるわざで創造主の神とイエス・キリストを証しし、教会がリバイバルして多くの実を結んでいる。

万民の聖徒にとってイスラエルはそれほどなじみのない国ではない。主がお生まれになった国であることはもちろん、堂会長イ・ジェロク牧師を通していのちのみことばで新しく変えられ、神の力あるわざを体験したイスラエルのキリスト教界と聖徒の証しをたびたび聞いているからだ。

イスラエル・キリスト教界の招きで万民中央教会の教職者会長イ・スジン牧師が牧会者を対象にセミナーを導き、イスラエルで開かれる賛美フェスティバルには毎年万民の公演チームが招待されている。

さらに創立記念、キャンプなどの教会行事の時はもちろん、教会の働きを学んで体験するためにイスラエルの牧会者と働き人が随時訪問している。

万民中央教会とイスラエルとの縁は開拓時に遡る。1982年7月25日、開拓礼拝をささげて以来、神は民族福音化と世界宣教、大聖殿建築と合わせて、終わりの時、主が来られる日が近づく頃、イスラエルを目ざめさせる働きをすることを具体的に教えてくださった。

それでイスラエル宣教のビジョンを抱

いて数えきれない祈りを積んできた万民中央教会だが、驚くべきことに2007年7月25日、イエス様が成長されたナザレで堂会長イ・ジェロク牧師が初めての集会を導いた。

イスラエル宣教チームは3年間で12回イスラエルを訪問し、ハイファ、アシュドット、ベツレヘム、エルサレム、アシュケロン、ベエルシェバ、エイラト、テルアビブ、ナハリアなどイスラエル全域を巡回して、24回の集会和3回の牧会者セミナー、10回余の牧会者の集まりを持ち、各界各層の指導者に会って三位一体の神の愛を伝えた。

そこで創造主なる神の力あるわざが現れ、イ・ジェロク牧師の祈りで多くの人々が不治の病とがん、心臓病、てんかん、糖尿、うつ病などがいやされて麻薬から解放され、みごもりの祝福を受けて神に栄光を帰した。これによってイスラエル全域に主の福音と聖霊のみわざが伝えられ、これはイスラエル政界のトップクラスと正統派ユダヤ教徒にまで伝えられた。

イスラエル憲法では宗教の自由が認められているが、国民のほとんどが唯一神

ヤハウェを信じているユダヤ教徒だ。イ・ジェロク牧師と宣教チームがイスラエルに初めて足を踏み入れた当時、ごく少数にすぎなかったクリスチャンたちは社会的に非常に萎縮していたし、牧会者でさえ働きを続けることが神のみこころなのか尋ねるほどだった。このような劣悪な状況でも、イスラエルをくまなく訪問して彼らの手を取り、神の力あるわざを現しながら神の愛を伝えるイ・ジェロク牧師の宣教が彼らにとって大きい勇気を与えたのだ。これは全世界のどの牧会者も想像できない方法だった。

これを通してイスラエル牧会者と聖徒は主の愛を悟り、次第に力を得て一つになり始め、結局自発的に「クリスタルフォーラム」(イスラエル牧会者協議会)を組織し、イ・ジェロク牧師を講師に招いて「2009年イスラエル連合大聖会」をエルサレム国際コンベンションセンターで開催するという大きい実を結んだ。当時、聖会は2つの放送局から全世界に中継されたが、現場ではもちろん、放送を通して参加した数多くの人は「イエスがなぜ私たちの救い主

であるのか」を大胆に宣べ伝えるイ・ジェロク牧師の姿と驚くべき神の力あるわざを今でもありありと覚えている。

現在、イスラエルには12の支教会と20余の協力教会があり、聖徒たちは堂会長イ・ジェロク牧師に祈りを受けたハンカチ(使徒19:11-12)を通していろいろな病気がいやされて答えられる、神の力あるわざを体験している。

またCMTN、TBNロシア、CNL、Holy God TV、ロードノイなどの福音放送と『十字架のこぼれ』『目ざめよ、イスラエル』など英語、ロシア語、ヘブライ語、アラビア語などに翻訳されたイ・ジェロク牧師の信仰書、そして新聞「万民ニュース」を読んで霊的に成長している。また、クリスタルフォーラムが毎年賛美フェスティバルなど活発な働きを展開し、イスラエルの教会がリバイバルしている。

神の摂理のうちには終わりの時、イスラエルに向けられた聖霊の働きは今この瞬間も進められており、その限りない愛はイスラエルだけでなく全人類に向けられた父なる神の寛容と待ちである。

神を愛する者



堂会長イ・ジェロク牧師

「…心を尽くし、思いを尽くし、
知力を尽くして、
あなたの神である主を愛せよ。
これがたいせつな第一の戒めです。…」
(マタイ22:37-39)

私たちが神を愛して信仰生活ができるのは、細やかな神の愛によるものです。自分で選んだようですが、実は父なる神の愛と導きがあったからです。みことばを聞いて悟って、祈って使命を果たすのも、そうできるように強くして下さる神の恵みなのです。

このような神の深い恵みに心から本当に感謝して、神を愛する聖徒の生き方はどんなものなのでしょうか？

1. 何より神を第一に愛します

「私は神様を愛しています」と言う人の中には、心から神を愛する人がいるかと思えば、そうでない人もいます。神より家族や名誉、権勢、物質のほうを愛しているのに、自分なりに熱心に教会に通っているのに、自分では神を愛していると思ふのです。

もし神よりも大切に思うものがあるなら、神に向けられた愛が真実なものになれません。たとえば、ある人に切実な願いがあって、絶えず祈って断食して熱心

に忠実に仕えます。恵みと感動が臨む時は、涙で愛を告白したりもします。ところが、時間が過ぎて自分の願いどおりにならないと、変わってしまうことがよくあります。

ひょっとして、心がさびしくなって、不平の言葉を吐き出して、祈って忠実に仕えることをやめるなら、これは神より自分のほうを愛する姿であり、神を愛するという言葉自体が真実なものになれないのです。神を愛するという告白が真実になるためには、この世のどんなものより神を愛さなければなりません。

ダニエルの三人の友だちは偶像を拝まなかったので、火の燃える炉に投げ込まれる危機に面しました。この時、彼らは「もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません。」と告白しました(ダニエル3:17-18)。

全能なる神が救い出してく下さると信じるだけでなく、もしそうでなくても、すなわち、焼け死ぬことがあっても、神に申し訳ないことはできないということです。つまり、ダニエルの三人の友だちにとっては、自分の命より尊いものが神だという意味です。皆さんはひとり子を渡して下さった神の恵みを思って「私の命より神様、主を愛しています」と心から告白できるのでしょうか？

このような人はすべてのことに自分の思いや計画を先立たせるのではなく、みことばと祈りで神の望んでおられることをまず求めます。自分がしたくて好きなことより、神が喜ばれることを選びます。自分の利益より神の国に利益になることを求めます。どこで何をしようが神に喜ばれようとして、神のみこころを望んでおられることをいつも第一に考えます。働き人ならば、当然このような心でなければなりません。私たちが神を第一に愛して、すべてのことに神に喜ばれる生き方をするなら、神もただ受けておられるではありません。

箴言8章17節に「わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見つかる。」とあるとおり、私たちが神を第一に愛するなら、神も私た

ちを最高に愛してく下さるのです。万軍の主である神に愛されるなら、それ以上うらやむことがどこにあり、できないことがどこにあるでしょうか。全能なる神の力で高くしてく下さり、私たちの願いは何でも答えて、入る時も出て行く時も祝福してく下さるのです。

2. 御霊の歩みへと導く牧者を愛します

真実の信仰がある聖徒は霊的ないのちの糧で羊の群れを養い、真理の模範を見せる、真実な牧者を自然に愛します。ただ好きで愛するのではなく、心から愛するようになります。世の人は理解できませんが、主にあつて牧者と羊の群れの愛は世のどんな愛より濃いのです。真実な牧者はイエス様のように羊の群れのために自分の命まで渡すからです。

〈第一テサロニケ2:8〉に「このようにあなたがたを思う心から、ただ神の福音だけではなく、私たち自身のいのちまでも、喜んであなたがたに与えたいと思つたのです。なぜなら、あなたがたは私たちの愛する者となったからです。」とあります。使徒パウロは言葉だけで福音を伝えたのではなく、このように自分の命を惜しまないで聖徒に仕えました。それで、ガラテヤ地方の聖徒たちは、もしできれば自分の目をえぐり出して使徒パウロに与えたいとさえ思つたのです。また、使徒パウロを助ける弟子たちもやはりパウロをこの上なく愛しました。

〈ローマ16:4〉に「この人たちは、自分のいのちの危険を冒して私のいのちを守ってくれたのです。…」とあり、〈ピリピ2:30〉には「なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。」とあります。

このように使徒パウロの弟子たちは彼のために命さえ惜しまないほど、真実の愛をしたのです。この弟子たちには師の痛みがすなわち自分の痛みであり、師の願いがすなわち自分の願いでした。使徒パウロが牢に閉じ込められていた時は、そばで力と慰めになり、あるいはパウロの心をもって教会を巡って聖徒の信仰を固めたりもしました。

牧者の心はただ神の栄光を現わすことにあります。食べるにも、飲むにも神の

栄光を現そうと願っていて、魂が救われて聖められ、祝福されることを望んでいるのです。まことに牧者を愛する人は自分を捨てて神の栄光のために生きて、他の魂を救って真理に導き入れようと、神の力を切に求めるようになります。

3. 魂への愛が濃いです

ある人は神を愛すると言いつつも、自分だけの信仰で終わることがありますが、熱心に礼拝して祈るとは言いますが、魂の救いについては別に関心がありません。

しかし、神を愛して牧者を愛するなら、魂への心が切実になります。神と主が死にかけていく魂のゆえ、どれほど悲しんでおられるのか知っているからです。しかも心に善があれば、それだけ他の人に善を行うようになります。それで、自分が神と主にいただいた愛を何としてでも他の人にも味わわせたいと思うのです。弱い人々をまめに訪問して、困っている人々に力いっぱい施しをして仕えます。誰かがさせなくても、神の心、主の心、牧者の心をもって、神の国を顧みるようになります。使徒パウロがそうでした。

〈第二コリント11:28-29〉を読むと、魂への彼の愛がどれほど濃かったのかがよく書かれています。彼は「このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましようか。」と言いました。まさに神を愛するなら、魂のためのこのような愛の告白が出て来るべきなのです。

愛する聖徒の皆さん、

聖書には数多くの戒めがありますが、大切な第一の戒めは神を愛することです(マタイ22:37-39)。全知全能なる神が人間を創造して、歴史をつかさどられるのも、神を愛する子どもを得て、永遠の天国で一緒に生きようとするからです。

このような神の心を悟って、さらに神を愛することに励みますように。そして、心から神を第一に愛して、自分を御霊の歩みへと導く牧者と一つになって、他の人々にも愛を行う幸いな聖徒になり、神に大いに栄光を帰しますよう、主の御名によって祈ります。



Manmin Central Church

Tel: 82-2-818-7063
Fax: 82-2-818-7048
www.manmin.org
e-mail: jujinkyung@hotmail.com



Tel: 82-2-824-7107
Fax: 82-2-813-7107
www.gcnetv.org
e-mail: webmaster@gcnetv.org



Tel: 82-2-818-7039
Fax: 82-2-830-5239
www.wcdn.org
e-mail: wcdnkorea@gmail.com

万民ニュース

Japanese

発行人: イ・ジェロク
編集者: ピン・グンソン
www.manmin.org/Japanese
www.manminnews.com
編集発行: 万民中央教会
〒152-848 韓国ソウル市クロ区デジタル路26キル29
TEL: 82-2-818-7063 FAX: 82-2-818-7048

心をご覧になる神



聖書を読めば、愛の父なる神が「わたしは…人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。」と言われた(第一サムエル16:7)。

韓国のことわざにも「十尋(ひろ)の水の中は分かって、一尋の人の心は分からない」というものがあるが、これは人の心によって気配りと言葉と行いが決定されるからだ。人の心には善と悪がともにあるので随時変わるが、どんな状況でも変わらない全き心から出た行いでこそ、人との関係はもちろん、神との関係でも信頼されることができる。

心の違いはどこから来るのか?

心には先天的に親の気を通して受け継いだ分野もあるが、後天的に各自が自分の心に何を多く受け入れて、刻んで、固まっているかに応じて、心の違いが生じる。

たとえば、心から神を愛する人ならば、戒めを守って、どんな状況でもためらわずに神を選択する。また、心が真実な人は、いくら損害をこうむるとしても、決して嘘をつくことはできない。だが、心が完全でない人は、普段は嘘をつかないようでも、いざ極限状況が来ると嘘が出てくるのが見られる。このよう

に、心がどれほど良くてまっすぐかなどによって、ひとりひとりの行動様式が違ってくる。ある人は良い人のようだが、決心したことをよく守れないし、ある人はそんなに心が良く見えなくても、一度決心したことは最後まで移り変わらずやり遂げたりもする。

したがって、真理である神のことばに背くすべてのものを脱ぎ捨てて、真理に属するものだけ心に刻むならば、真実で全き心に変えられることができる。

神のみこころを追い求める全き心とは?

いつも喜んでいる心

神の子どもたちにとって最も大きい喜びは救いの喜びだ。この喜びは、死刑囚が刑が執行される前に、劇的にすべての罪が赦されて自由の身になったのと比べられないほど大きい。地獄で永遠に生きるしかない人がイエス・キリストの尊い血の力によってすべての罪を赦されて、永遠のいのちを受けるだけでなく、全知全能の神の子どもとされて、美しい天国で永遠に生きていける資格を得るからだ。したがって、救いの喜びを心に完全に大切にしまっておいた人は、世で生きていく間、どんな訓練を受けても喜びを失わないでいられる。

また、信仰生活をしながら神の答えと祝福を通して「神様は私の父であり、私はその方の子どもだ。私が求めるとき良いものを下さって、私を愛していつも良い道へと導かれる」ということが心に刻まれて固められる。だから、ひょっとして答えが遅いようでも「お父様は私に一番良い時に一番良いもので下さるだろう」という信仰が湧いてくるので喜べる。このように心の深いところにある喜びがどんな状況でも自然に流れ出るので、いつも喜んでいられるのだ。

すべてのことについて感謝する心

父なる神はこの地上で耕作を受けている子どもたちがやがて行く天国を最も美しく良い材料でお造りになって、永遠に幸せを満喫できるようにしてくださった。このような天国への希望を持つ人は、たとえこの地上で生きている間、困難でつらい暮らし向きと境遇にいても、決して現実を見ないので、心から感謝が出て来る。それで、〈ヘブル6:19〉に「この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側に入るのです。」とあるのだ。

この他にも私たちが感謝する条件は非常に多い。心から感謝する人は、必ずしも何か答えをいただいて祝福されなくても、すべてのことについて感謝できる。この険しい世で自分が信じてより頼めるお方、自分を愛して慰めてくださる父なる神がおられるということ一つだけでも、芯から感謝が出てくるのだ。父なる神はこのような感謝の告白を喜ばれ、感動して受けられる。

それで、誰でもすべてのことについて感謝する心で、神の真実の子どもに変えられようと火のように祈って断食するとき、驚くべき答えと祝福が臨むのが体験できるのだ。

絶えず祈る心

父なる神が祈る子どもをご覧になって、その祈りの声に耳を傾けておられることを信じるなら、心から祈りをささげることができる(第二歴代誌7:15;マタイ18:20)。父なる神の恵みに感謝して、神の国をまず第一に思っ祈るようになる。また、御霊に示されて父なる神の心を深く理解して祈るようになる。

人と人の間でも、助けを求めるとき、相手の真心が感じられれば、その心を理解することになって、何としてでも相手を助けたい気になる。まして愛そのものであられ、すべてを惜しみなく子どもたちに与えることを望んでおられる父なる神の御前に心から信仰によって切に呼び求めて祈るなら、どうして答えてくださらないだろうか(エレミヤ33:3)。

このように真実の祈りで神の力ではできないことがないという信仰と感動のこもった善の祈りをささげるなら、父なる神も喜ばれて、すみやかに答えと祝福をお与えになるのだ。

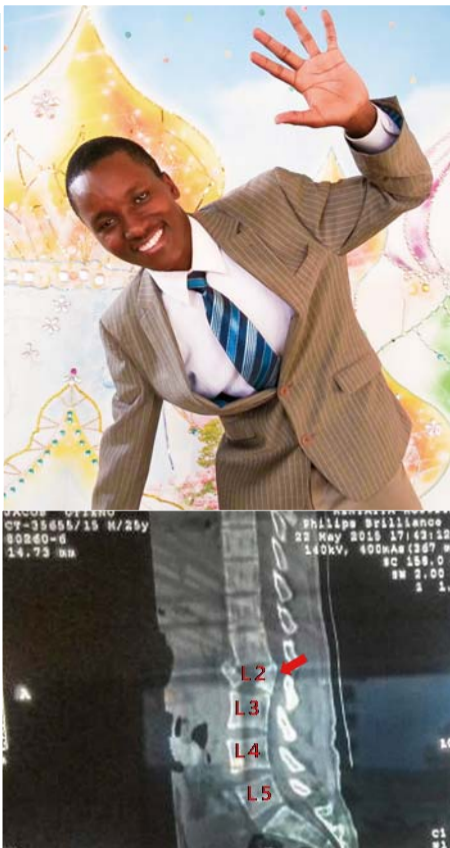
全き心から湧き上がる献身と忠実は年月が経っても変わらず、むしろさらに強く神を慕うようになる。どんな事でも芯から神を愛して、天国を望む心で神が備えられた答えと祝福をいただいて、思う存分栄光を帰すように。

9月支教会スケジュール

9月12日(土)	名古屋万民教会	ハンカチ集会(講師:イ・ヒソン牧師)	9月27日(日)	東京万民教会	権能いやし聖会(講師:崔ピョンラン牧師)
9月13日(日)	名古屋万民教会	創立21周年記念礼拝・勲士就任式(講師:イ・ヒソン牧師)	9月27日(日)	舞鶴万民教会	権能の癒し聖会(講師:キム・マルコ牧師)
9月20日(日)	沖縄万民教会	権能いやし聖会(講師:山下好美牧師)	9月30日(水)	飯田万民教会	権能いやし聖会(講師:柳 承吉牧師)
9月20日(日)	大阪万民教会	権能の癒し聖会(講師:キム・マルコ牧師)	9月30日(水)	松本万民教会	リバイバルいやし集会(講師:伊藤正明牧師)

「脊椎が折れたのですが、祈りを受けた後、歩いてジャンプできます」

ヤコブ・オティエノ・オジャン聖徒(26歳、ケニア・ナイロビ万民教会)



▲ 腰椎2番が前後で完全に折れていて骨片が脊椎神経を押ししていたが、祈りを受けて正常になった。

2009年8月、私は路傍伝道をしておられたナイロビ万民教会ウィリアム・ワニヤマ副牧師先生を通して教会に登録しました。一生懸命に信仰生活をしているうちに、2014年4月には教会職員として勤める祝福をいただきました。

ところが2015年3月23日、オンガタ・ロンガイ支聖殿移転のために4メートルの高さの屋根の上で仕事をしていて、木材が折れて床に落ちたのです。背中に我慢できない痛みがあって全く動けなかったし、息さえろくに吸えませんでした。

一緒に仕事をしていた働き人たちが携帯に録音されている韓国の万民中央教会の堂会長イ・ジェロク牧師先生のいやしの祈りを受けるようにして、その後病院に連れて行ってくれました。レントゲン撮影の結果、脊椎骨折で、手術しなければならない

ところでした。でも、私は信仰によっていやされようと思いました。

それまで教会で堂会長イ・ジェロク牧師先生の時間と空間を超えた祈りを受けたり、堂会長先生の祈りを受けたハンカチ(使徒19:11-12)で担任のチョン・ミョンホ牧師先生が祈られた時、いろいろな病気がいやされて、手術をしなくても後遺症なくすみやかにいやされる神の力あるわざを見てきたからです。翌日の3月24日、私はチョン・ミョンホ先生にハンカチの祈りを受けました。麻痺していた脚と腰に感覚がよみがえりました。病院では不思議なことだ、手術はしなくてもよいが、コルセットをつけて固定しなければならないと言いました。

チョン・ミョンホ先生は祈りの後、自分の信仰生活を顧みなさいと言われました。私はそれまで神様のために働くとは言ってい

ましたが、神様を愛する心からでなく義務感で、時には不平を言いながら働いていたということを悟って悔い改めました。先生の祈りを受けた後は痛みがなくなって、脚が少しずつ動き始めました。

3月31日に信仰によって退院し、その翌日、私の家を訪問された先生の祈りを受けた後は力が与えられて、自分でベッドから起きて歩きました。その後、急速に回復して、4月23日には普通に出勤できました。ハレルヤ!

今年5月22日、精密検査のためにケニヤッタ病院に行きましたが、全然苦しまないで歩き、元気な私の姿を見たお医者さんは非常に驚きました。愛なる神様に感謝いたします。祈ってくださった堂会長イ・ジェロク牧師先生とチョン・ミョンホ先生にも感謝します。

「主の良い心に似せられていく人生、本当に幸せです」

イ・ヨンジン勸士(57歳、2大大14教区)

小さい頃から教会に通っていた私は1983年、結婚した後も区域長の使命を任されて、5人が30人にリバイバルするほど聖霊に満たされた信仰生活をしていました。ところが、私には一つ、越えられない山のように感じられる問題があったのですが、それはしゅうとめとの葛藤でした。

その当時、主人が小舅にお金を貸して、返してもらえない上に保証人になったことまで重なって、何とかやりくりして暮らしていました。ところが、田舎にいたしゅうとめが余生を末息子の主人と暮らすと言うのです。

私は、今は暮らし向きが苦しいから一年後にお迎えしますと言っても、頑として聞かないしゅうとめがとうてい理解できませんでした。さらに主人の分の遺産まで小舅が持って行って使っても何もしないでただ見ていたので、しゅうとめに対するやりきれない思いと憎しみは大きくなっていくだけでした。このように大小の事でしょっちゅうぶつかるので断食して祈ったのですが、感情は相変わらずだったし、問題は解決されなかったのです。

そんなある日、万民中央教会の堂会長イ・ジェロク牧師先生の証し手記『死の上がり框で味わう永生』を読んで「十字架のことば」の説教テープを聞くようになりました。驚くべきことに、その中には私が数年間祈ってきた真実な牧者がまさにこの方だという確信を持てる内容がぎっしりだったのです。

1997年7月、私は喜びあふれて万民中央教会に登録して、いのちのみことばを聞きながら神様と主の愛を悟っていくと、しゅうとめに対する感情と憎しみが抜けて行きました。2年後にはしゅうとめが認知症になって下のお世話をしなければならなくなりましたが、嫁としての道理を

尽くそうと努力しました。すると、ある瞬間からしゅうとめがかわいく見えたし、できなかった親孝行ができるということが感謝なのでした。

2002年、しゅうとめが天に召されると、夫の家族は私が天使のようだとはめてくれて、心から有り難く思いました。また、区域長から組長になり、さらに地域長の使命を果たしている間、驚くべき神の力あるわざを体験しました。

2005年、妹のイ・ヨンシム勸士が突然脳出血で倒れて、意識もなく死の直前まで行ったのです。ちょうど金曜徹夜礼拝がある日だったので、私は一番下の妹、イ・ヨンギョン勸士と一緒に救急車に妹を乗せて、堂会長先生のところに行って祈りを受けました。すると妹は意識が戻ってきて目をさましたし、二日後に祈りを受けた後は、手足を動かすことができました。妹が心を砕いて罪を告白して、もう一度祈りを受けた後は、完全に回復しました。その後から今まで、妹は元気に地域長の使命を果たしています。ハレルヤ!

2008年からは女性地域長連合会副会長の使命が与えられて、自分なりに忠実に仕えて熱心に信仰生活をしました。ところが2011年、霊的な成長が遅い自分自身を発見して、その原因を悟ることになりました。自分なりに善良に生きようとしたし、周りからいい人だという言葉聞いて生きてきたので、自分はいいい人だという錯覚に落ちて、心の割礼を怠っていたのです。それで、断食と祈りで美しい御霊に属する心を耕すためにまめに心の割礼をしながら、すべてを自分のせいと思って、地域員ひとりひとりを主の心で愛そうと努力しました。

そして2014年3月、神様の恵みのうちに御霊に属する

心に変えられる祝福をいただきました。今は相手の立場で考えるので赦しと愛が先に立って、御霊に導かれて地域員を訪問すると問題が解決されるという体験をしています。

真実な牧者に会わせてくださり、主の善と愛を悟って行えるように導かれた三位一体の神様に感謝と栄光をお帰しします



▲ イ・ヨンジン勸士(左)、堂会長イ・ジェロク牧師の祈りで死の直前で生き返った妹イ・ヨンシム勸士(右)とともに。

主日大礼拝、主日夕方礼拝、金曜徹夜礼拝はソウルの万民中央教会の礼拝をNSS-6衛星で同時にささげています。

・イエス・キリスト飯田万民教会

〒395-0807 長野県飯田市鼎切石 3883-4
T) 0265-56-8286
<http://iidamanmin.to.cx/>

・名古屋万民教会

〒465-0014 名古屋市長東区上菅 1-916
T) 052-774-8874

・イエス・キリスト山形万民教会

〒999-3716 山形県東根市蟹沢 1486-4
T) 0237-43-0771

・イエス・キリスト別府万民教会

〒874-0924 大分県別府市餅ヶ浜町 4-41
T) 0977-23-8980

・イエス・キリスト大阪万民教会

〒591-8023 大阪府堺市中百舌鳥町 5-775-15
T) 072-220-5289
<http://www.osmanmin.com/>

・イエス・キリスト旭川万民教会

〒071-8144 北海道旭川市春光台4条 3丁目 11-23
T) 0166-53-0652

・イエス・キリスト東京田端万民教会

〒114-1102 東京都北区田端新町3丁目36-1 栄ビル2F
T) 03-3809-3326
<http://tabata.manmin.or.kr/>

・イエス・キリスト松本万民教会

〒399-0033 長野県松本市笹賀 4343
T) 0263-57-0003

・イエス・キリスト舞鶴万民教会

〒624-0913 京都府舞鶴市上安久 138
T) 0773-75-5656
<http://www.manmin.jp/>

・岡山万民教会

〒716-1321 岡山県高梁市有漢町有漢3206
T) 0866-57-9691

・イエス・キリスト東京万民教会

(東京万民宣教センター)
〒167-0051 東京都杉並区荻窪 2-29-13
T) 03-6915-1740

・イエス・キリスト沖縄万民教会

〒901-2212 沖縄県宜野湾市長田1-28-10 サンライフ米須301号
T) 098-988-9472